

私のはんせい記

～「改修設計」事始め～

建築家 三木 哲

● 労働組合を結成する

1969年4月28日、安田講堂前に東大全共闘・2000人強が結集し農学部、弥生門から不忍池の脇を通り上野駅から乗車した。電車は東京駅付近で動かなくなり、線路上を新橋方面に向けて歩き出した。高架線路上で機動隊の挟み撃ちされ、東大全共闘は全滅した。

この夜、都内各所で数千人が逮捕され、破壊活動防止法が適用され、240人強が起訴された。

私は4.28沖縄闘争統一被告団として、その後、7年近く裁判闘争を継続した。

収監された小菅刑務所は蒲原重雄設計の表現主義派の建築で、コンクリートの床は磨きぬかれ、分厚い木製扉の真鍮製のノブはぴかぴかに光っていた。便座の蓋を兼ねた木製の椅子の横に洗面流しの蓋を兼ねた木製の机があり、「日本共産党万歳」と彫り込まれていた。

火炎瓶闘争時代の共産党員が残したものだろう。

4ヶ月近く小菅の独居房で暮した。朝・昼・夜、美味くない飯を食い、窓辺を訪れる鳩に米粒を与え、独居用運動場で体操し、2日に1度、風呂に入り、読書と就寝を繰り返し、娑婆に出た時には15%近く体重がふえ、丸い体型になっていた。

安田講堂前で演説していた医学部の小西や田宮はよど号をハイジャックして北朝鮮に飛んだ。

授業が徐々に再開され、研究室も正常化していった。行き場を失い大学内をうろついていた私に、教官は幾つかの設計事務所を紹介し、面接を薦めた。

野生司建築設計事務所は飯田橋の大曲にあった。

入社テストは3時間で、与えられた設計課題の図面を書上げると合格通知が来た。

建築設計部が4班、設備設計部、構造設計部、積算部、都市計画部、経理事務部など所員数が100名を越す建築設計事務所であった。

野生司義章所長は昼間から冷酒のコップを片手に設計室を歩き回り製図台を覗きこんでいた。



蒲原重雄設計の小菅刑務所

光が丘のグランドハイツの住棟計画を検討した記憶がある。

同期の新入社員は4人で、所員達の給与明細を見せ合ったが、諸手当があって残業手当がなく自分が受け取る給与の根拠がわからない。

1971年、入社後7ヶ月、冬のボーナス説明会が全所員を集めて行なわれた。

その場で、基本給以外の諸手当がばらばらで、その根拠が理解できないなど、経理担当役員に説明を求めた。人のよさそうな役員は、しどろもどろになり、説明が要領を得ない。そこに集められた所員も納得がいかない。説明会は中断となり、残された所員たちが組合をつくろうということになった。誰も反対する人はいなかった。

あっけなく労働組合が結成された。私は書記長に選任された。28歳の時である。

野生司建築設計事務所は、同じ飯田橋にあった組織事務所に比して給与水準はきわめて低く、皆が組合の出現を待ち望んでいたと思われる。

残業拒否闘争を決行し、残業手当が支給されるようになり、給料も多少上がったが、私は設計の仕事を取上げられ、干された。

ある日の昼休み、近くの労働組合の爭議の支援集会に出かけた。不覚にも公務執行妨害で逮捕され、3日間ほど拘留された。この時を待っていたように事務所は私を解雇した。

みき・てつ

(有)共同設計・五月社一級建築士事務所主宰。1943年生まれ。建築家がメンテナンスを手がけることなど考えられなかった時代から「改修」に携わり、30年以上にわたって同分野を開拓し続けてきたパイオニア。